

避難者と支援者による

2017

ふれあい フェスティバル 報告書

主催：広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会



あいさつ

東日本大震災から7年が経ちましたが、避難生活を余儀なくされている方々は全国で約7万5,000人（復興庁：平成30年1月）となっています。そのうち都内に広域避難されている方々は5,060名（東京都：平成30年1月）。広域避難では最も多く避難されているのが東京都となっています。

平成29年3月には区域外避難者等の仮設住宅の供与が終了になり、避難者を取り巻く課題は大きく動いています。こうしたなか、避難者同士だけでなく避難者と支援者がつながり、避難者支援の取組みを進めていく必要が出てきています。

27年度から実施しております「避難者と支援者によるふれあいフェスティバル」では、多くの避難者と支援者に来場頂いています。また、今回も、都内だけでなく、他県の方にも声をかけ、埼玉県、千葉県、山梨県、神奈川県の方々に参加頂くことができました。

開催にあたり、本当に多くの皆様からご支援を頂きました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

平成30年3月

広域避難者支援連絡会 in 東京
広域避難者交流会 実行委員会

概要

タイトル 避難者と支援者による2017ふれあいフェスティバル

日時 2017年10月1日（日）10時30分～15時30分

場所 都立篠崎公園（〒133-0054 江戸川区上篠崎 1-25-1）

参加者 554名（うち、避難者236名）

※避難者への周知は、各当事者団体を通しての呼びかけとともに東京都都内避難者支援課が実施する「定期便」での発送や各区市町村行政、支援団体からの情報提供等により行いました。また、他県については、県域の支援団体から個別の避難者に情報提供頂きました。

主催 広域避難者支援連絡会 in 東京 広域避難者交流会実行委員会

（実行委員メンバー）青空会、足立区新田ふるさと会、コスモス会、鷺宮都営住宅自治会、東雲の会、東北の絆 サロン FMI 会、NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク、町屋6丁目ミニサロン、みちのくまほろば会、むさしのスマイル、かながわ東北ふるさと・つなぐ会、双葉町埼玉自治会、広域避難者支援連絡会 in 東京

（広域避難者支援連絡会 in 東京 参加団体）荒川区社会福祉協議会、いたばし総合ボランティアセンター、AAR Japan[難民を助ける会]、金光教首都圏災害ボランティア支援機構、災害復興まちづくり支援機構、全労済、中央労働金庫、東京足湯プロジェクト、東京災害ボランティアネットワーク、東京都生活協同組合連合会、東京ボランティア・市民活動センター、東京労働者福祉協議会、連合東京

実行委員長 木幡四郎（東北の絆サロン FMI 会）

副実行委員長 藤田博司（双葉町埼玉自治会）、二俣公子（東雲の会）

後援 福島県、宮城県、岩手県、東京都、江戸川区

開会式

- (1) 実行委員長 挨拶（東北の絆サロン FMI 会 木幡四郎）
- (2) 各首長からのメッセージ
福島県知事 内堀雅雄氏からのメッセージ（代読：福島県避難地域復興局避難者支援課課長 深谷一夫氏）
宮城県知事 村井嘉浩氏からのメッセージ（代読：宮城県東京事務所 副所長 大場則昭 氏）
岩手県知事 達増拓也氏からのメッセージ（代読：広域避難者交流会 実行委員会）
江戸川区長 多田正見氏からのメッセージ（代読：江戸川区生活振興部地域振興課課長 白木雅博氏）
- (3) 実行委員紹介

ステージ出演

ステージでは当事者団体1つ、支援団体4つ、当事者と支援者で作る団体2つの合計7つの出演がありました。（実行委員会が2回出演しているため数が合わない）

No	出演団体名	出演内容
1	金光教静岡教会 D&G ハンドベルリンガーズ	ハンドベル演奏
2	みちのくまほろば会 ウクレレ・フェローバンド	ウクレレの演奏（2回実施）
3	えっちゃんと仲間たち	演歌&男の踊り
4	かんちゃん&どしん	ギターフォークソング
5	Kotoist 増田厚司	箏の演奏
6	実行委員会	ダンス（エビカニクス・恋ダンス）
7	双葉町埼玉自治会	ふたば音頭
8	実行委員会	東京音頭

なお、開会式・閉会式含め、ステージの司会は、避難当事者団体である双葉町埼玉自治会の西内重夫さんと広域避難者支援連絡会 in 東京（いたばし総合ボランティアセンター）の神元幸津江が行いました。



実行委員長の挨拶



ステージでの演歌&男の踊りの様子

ブース出展

本イベントでは当事者団体 7、支援団体 22、その他本部など併せて 29 のブース出展があり、団体紹介や食事の提供、交流スペース、小物作り体験などさまざまな出し物がありました。

※ 1 ブースに複数の団体が出展している場合があるため合計は合いません。

No	出展団体名	出展内容	No	出展団体名	出展内容
1	フラワーコミュニケーション協会	ハロウィンミニリース作り	15	双葉町埼玉自治会	柏餅、野菜、小物販売
2	東雲の会／(慶應義塾大学) ひよこ足湯隊	健康相談	16	じゃおクラブ	手作り品の販売と展示
3	災害復興まちづくり支援機構	専門相談	17	東北の絆サロン FMI 会	子ども向け手作り作品販売と体験教室
4	避難の協同センター	相談・よろず情報提供	18	金光教首都圏災害ボランティア支援機構	子どもコーナー
5	東京しごとセンター	就職相談	19	NPO 法人 こどもプロジェクト	ママ Café プロジェクト
6	東京都 都内避難者支援課	都内避難者相談拠点出張相談	20	板橋区社会福祉協議会	バルーンアート
7	福島県 避難者支援課	福島県出張相談	21	鷲宮都営住宅自治会	ハンドマッサージ
8	宮城県 東京事務所	宮城県相談ブース	22	連合東京	防災クイズ
9	江戸川区 社会福祉協議会	相談窓口	23	東京足湯プロジェクト	足湯
10	生活協同組合 パルシステム東京	チョコバナナ	24	ぐるぐるユニット／NPO 法人とみおか子ども未来ネットワーク	双葉郡地図ワークショップ
11	東都生活協同組合	焼きそば	25	人の輪ネット	写真展
12	生活協同組合 コープみらい	フランクフルト	26	江戸川区福祉ボランティア団体協議会	ジャガイモ料理
13	生活クラブ 生活協同組合・東京	豚汁	27	雄勝町復興支援実行隊	海産物品販売
14	実行委員会	避難者支援展示ブース	28	本部テント	受付等
			29	東京労働者福祉協議会	ふれあいテント

※ふれあいテントの横に、ふれあいフェスティバルに参加した避難者や支援者のいまの想いを書いて貼り出す「メッセージボード」を設置しました。

※各生協ブース等に募金箱を設置し、合計 3 万 977 円を集めることができました。この寄付金は、JVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）に届けられ、平成 29 年度九州北部豪雨の被災者支援活動に使用されます。



各生協のブースではフランクフルトや焼きそば、豚汁、チョコバナナなどの食事が提供されました。



2つの当事者団体が一緒にブースを設置するところも見られました。(写真は、ぐるぐるユニットとNPO法人とみおか子ども未来ネットワークのブース)

実行委員や参加者の皆さんからの声

第3回避難者と支援者による2017ふれあいフェスティバルの想い

東北の絆サロン FMI 会 木幡四郎
今回の開催にあたり各支援団体の方々を始め江戸川区の皆様方のご協力により素晴らしいイベントが開催され実行委員としても、つまずきもなく役割がすべて良好ではなかったかと思えます。

参加された方が「久しぶりにお会いできることを楽しみにしていたのよ」と皆さんが笑顔でお話をし、和み、大変癒されたのではないのでしょうか。

又、各行政の方々が笑顔を持ち、皆さんと親しみを身近に感じながら相談話などを受け対応をしていた場面も見受けられました、各ブースなどに声を掛けながら回っていたようです。

ふたば音頭、東京音頭の踊りにも参加し避難者と支援者と行政が一体になり楽しんでいたのではないかと思います。

参加者の皆さんの声を何らかの形で、もっと反映されればいいかと思えます。子供向けのブースでは、大変人気があり、竹馬では、親子で楽しんでる姿がとても平穏な雰囲気にも包まれていたような気がいたします。

避難者の方よりこのイベントが「待ちどうしがったあ〜」「こんな交流会があるの初めて知った」「来ていえがったあ〜」「まだ、やんだっぺえ」という声を聞き、引き続き避難者の方々の情報交換の広場を提供して行きたいと感じました。

避難者が安心してどこの地域に永住されても安心して明るい生活ができるように避難者と支援者の絆がより一層強い絆を持ち応援して行きたいものです。

篠崎公園の被災者交流会

東雲の会 大坊雅一
始めに、楽しい交流の場を準備をしてくださった、広域避難者支援連絡会 in 東京の皆様、並びに、関係者の方々に御礼を申し上げたいと思えます。

晴天に恵まれ、和やかに、また笑顔のあふれる会場でした。みなさん、日頃の狭い空間のストレスを、ここぞとばかりに発散しているのか、表情豊かに、談笑している姿が、印象的でした。

成増団地や加須のような、地域の方々と深く関わる場所を、避難先にすることができた人達は、この6年余りでその土地と住民の方たちと交流を深めることができ、有意義な時間を加えられた様に見えます。

一方、私たち東雲住宅の避難者は、地元の方たち

との交流はほとんど無く、確かに6年6カ月余が経過した事実があるのみで、果たして、その生活は、有意義なものであったのか、考えざるを得ません。

その意味においても、この様な交流の場を提供していただけた事に、感謝しております。

イベントに関しては、もっと参加者が各ブースを回り見る案内と、参加・体験できるものがあると、良かったと思えます。

さらに、学術的なブースに、気軽に行ける案内があると良かったと思えます。

最後に、自家用車で来られた方は、近隣駐車場が満車で、かなり遠方に駐車した方もいた様です。近隣の駐車場の場所を、知らせる事が出来る手立てが必要と思えます。

全く心配していなかった

町屋6丁目ミニサロン 井餘田隆也
今回のふれあいフェスティバルも、出展いただいた団体・出演いただいた団体、そしてイベント全体の調整をした広域避難者支援連絡会 in 東京のみなさんが本当に素晴らしかったと思えます。

企画から実施までの素晴らしさを何が証明しているかと言えば、これは「天気」です。実行委員会

でも、天気を心配する声がたくさん出ましたが、ふれあいフェスティバルに関わっている人、みんなが素晴らしい人なので、私は天気のことは全く心配していませんでした。

協力できることがあるなら、吹っ飛んでいかないと！という私なので、これからも関わりを持ち続けたいと思っています。

ふれあいフェスティバルに参加して

双葉町埼玉自治会 西内重夫

平成23年3月11日14時46分、家族で農作業中、もの凄い地鳴りと共に今まで経験した事がない地震。立っていることも、しゃがんでいても転ぶような揺れに見舞われ想像もつかない程の地震が発生しました。その約1時間後、私の家から海まで2km位ありましたが58世帯の集落や防風林の松林をすべて飲み込んで大津波が襲ってきました。全ての住宅や松林を飲み込みながら瓦礫となって襲って来ましたが、運よく我が家の手前で津波が止まりましたが、集落も松林も無になり海が見えており驚愕の思いで見えておりました。

東北地方を襲ったマグニチュード9、震度7の超巨大地震、想像を絶する20m超の大津波、建物全壊半壊棟数35万2814戸、死亡者1万9131人東日本大震災と命名。想像を絶する大震災と報道されました。

その日の夕方、大津波の影響で東電が危機的な状態になり、12日早朝避難するよう双葉町防災無線で放送があり、家族を避難させた私は、家中の家具が倒壊しており片付けをしておりました。

12日15時34分、東京電力第1原子力発電所1号機が制御不能になり爆発、東電の安全神話を信じて生活してきた私は、ドーンと響く爆発音には本当に驚きました。13日に避難先の川俣町で家族と合流し、安堵したのもつかの間、世界で類をみない原発事故。3号機、2号機、4号機が次々とメルトダウンや水素爆発を繰り返し放射性物質（セシウム、ヨウ素、ウラン、トリチウム等）の放出量は毎日2億4000万ベクレル（毎日新聞）と考えられると報道され、又、3億ベクレル超の汚染水は海に放流 我々10数万人に政府の避難指示が出されました。全く行先を指示されることなく全国に避難指示させられたのです。全ての財産を汚染され奪われて何も解決しないまま7年が経ってしまいました。

私達家族は6度の避難生活を繰り返し、一昨年、故郷には帰れないと思い、終の棲家として埼玉県加須市に住居をかまえました。

その後、双葉町埼玉自治会に入会し、広域避難者支援連絡会 in 東京の実行委員会に参加させて頂きました。避難者と支援者による2017ふれあいフェスティバルを開催するに当たり、事務局と実行委員会の10回に渡り会合を開催し、又、多くの後援協力があり盛会に開催出来た事とても嬉しく思います。

実行委員長木幡さんの開会挨拶で始まり、ステージでは金光教会のとても素敵な音色のハンドベル演奏で開演、特に「エビカニクス・恋ダンス」の時には公園中にこんなに参加者がいたのかと思う程、大人から子供まで多くの人が集まり盛り上がりにはびっくり！最後に東京音頭とふたば音頭で大きな輪になって、会場全員で踊る事が出来、人と人の大きな絆が出来たのではないかと思います。

避難者や地元含め関東圏から500数名が参加、町民同士交流は勿論の事、親戚の人が訪ねてきたり、他町村の人達や地元との交流を深める事が出来、お互いに意思疎通や情報を共有出来た事とても意義深いものがありました。

帰路バス車中では今日のフェスティバルの事や明日に向けて賑やかに話し合いながら帰路に着きました。今回、事務局と実行委員と仲間達が今後の事や夢や希望に向けて忌憚のない話が出来た事とても意義深いものがありました。

また来年も再会しましょう。ありがとうございました。



双葉町埼玉自治会のブース。柏餅や生野菜などの販売を行いました。

ふれあいフェスティバルに参加して

コスモス会 松崎真希子

第3回目となるふれあいフェスティバル。当日は晴天に恵まれ、多くの皆さんに参加して頂きました。私はメッセージボードを手伝わせて貰いました。声かけすると遠慮される方も居ましたが「いいわよ」とペンを取って下さる方も多く、とても有り

がたかったです。

願い、希望、現状など書いてある事は人それぞれですが、どれを読んでも私は元気を貰えた気がしました。今回もフェスティバルを開催するにあたって沢山の方々に協力して頂いた事改めてお礼申し上げます。

今年も、素晴らしい青空のもと、皆が楽しみしていた“ふれあいフェスティバル”

青空会 山田栄子

参加者全員が一体となり、支援団体の皆様には今年も心のこもった、ご支援をいただき、企画、又、身も心も暖まる、とん汁、フランクフルト、おでん、ポップコーン等々、いつも、ご苦勞をお掛け致しまして、本当に有難うございました。

ステージ、ブースも私達、当事者の沈んだ心の奥そこに迄、しみ渡るハンドベルの音色に心が洗われる思いがしました。

“まほろば会”さんのステージも、ふれあいフェスティバルには、欠かせないものとなり、他の支援団

体の方々のステージも、お忙しい中、いつも楽しませていただき、司会者の方のステージ進行も大変良かったです。

毎回お手伝いいただいている、ボランティアの方々、朝早くから、本当に有難うございました。お蔭様にて、大成功の“ふれあいフェスティバル”に青空のごとく、清々しく、又、“心”晴ばれとした気分最高に充実した一日を過ごさせていただきました。

支援団体、及びスタッフの方々には心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



ふれあいフェスティバルのメッセージボード。避難者、支援者問わず、多くの方にメッセージを頂くことができました。



鷺宮都営住宅自治会では支援団体と協働でハンドマッサージのブース「楽楽サロン」を出展しました。

ふれあいフェスティバルに参加して

かながわ東北ふるさと・つなぐ会
今里雅之

好天に恵まれて自然豊かな環境の篠崎公園で実施された2017ふれあいフェスティバルに参加させていただき有難うございました。

東北大震災から7年半が経過し福島県では4月に多くの地域が帰還解除となりましたが、ふるさとへの思いはあってもすぐに帰還という環境ではないというのが実態の様で、方部を超え多くのフェスティバル通の馴染みの方々との出会いがあり懐かしく・楽しいひと時でした。ふるさとを思い、友人・知人を求め語り合う場として、久方ぶりの出会いに心を弾ませ感動と喜びに時を忘れ、ふれあいテント内は大勢の人達が感動し絆を深めあい大声で談笑していました。

双葉郡地図ワークショップでは、学生ボランティアと一緒に各町村マップ（浜っぴ）へ爆笑しながら

思い出を書き込んでいました。その他数多くのブースがならび、食べる・癒す・聞く・見る・話すなど色々と楽しみ経験することが出来ました。

そんな中で未だに震災避難以来の出会い感激する場面もありましたし、また生活のパターンが変わり参加できない方や、人との出会いに遠慮があるのかなという思いもありました。

今回つなぐ会からの参加は自力直行組と以前から居住場所が近くメンバー間の往来も多いFMI会の方々のご厚意により町田便に便乗させていただき、そのままブースの物販展示に流れる形で参加させていただきありがとうございました。

イベントもブースも充実した内容で支援団体の方々、スタッフの皆さんおよび避難者が一体となれた最高のフェスティバルだったと思います。参加者一同笑顔の連続でした。手伝いもできず皆様のご厚情に深く感謝いたします。

2017年ふれあいフェスティバルに参加して

むさしのスマイル
岡田めぐみ

今年は、区域外避難者が3月で住宅が打ち切りになり、それを機に支援の手も終了していく会もあり、行き場がなくなっていってしまっていました。

そんな中、ふれあいフェスティバルのお蔭で普段会えない人たちと会うことができ、ほっとした時間を体感できとてもうれしかったです。

ぜひ、つぎも続けてほしいと思います。本当にありがとうございました。



東北の絆サロン FMI と一緒に「じゃおクラブ」では子ども向けブースを出展。多くの子ども達で賑わいました。



NPO 法人子どもプロジェクトの「ママ Café プロジェクト」ブース。長野から直接取り寄せた野菜の販売も。

避難者と支援者による 2017 ふれあいフェスティバルに参加して

鷺宮都営住宅自治会
関根仁美

今回も ハンドマッサージ で参加させて頂きました。福島弁が飛び交う光景は本当にみなさん良い顔になってます。「久しぶりだね～元気だった？」「今日は〇〇さんは 来てないのかなあー！」「あっちゃで見たよ！」…。

2017年フェスティバルに参加して

みちのく まほろば会 後藤恭子

10月1日の当日、目の覚(さ)めるような快晴に恵まれた。9、10月と天候不順の折なので、それは“宝くじ”に当たったような痛快さだ。

8時西東京郵便局前に全員集合する。神奈中の立派なバスが待機していたので車中の人となる。一行36名、皆さん上機嫌だ！残念なことに、この日地元の各種の行事と重なり、10名ほど欠席が出たことだった（子供等）。

篠崎という未知の街へ…小旅行の気分だ。車窓から眺める都内散策、高速道路の空中散歩など、青空の下の都内の風景に目を見張り歓声が上がっている。バスの中で当事者と支援者、ウクレレ会の人々が一体感を持って盛り上がり、私としてはホッとする思いだった。

小岩、篠崎は閑静な下町、どこことなく、ふる里の雰囲気と香りが漂っていた。

フェスティバル会場は、すでに準備が整って、各

当たり前の会話がだんだん出来るようになってきたんだなあーと感じました。

ふれあいフェスティバルに関わらせて頂いて嬉しく思います。スタッフの皆様 準備から片付けまで本当にありがとうございました。

これからも出来る限り関わらせて頂きます。よろしくお願い致します。

ブースが並び、ボランティアの若い方々がテキパキと動き笑顔で迎えてくれた。毎年の行事の毎に、温かく優しく接待してくれる姿勢に心がうたれ頭の下がる思いでした。

大樹の下の特等席にテーブルを揃えていただき落ち着き早速に店開き、ウクレレ、支援グループ別に役割につく。あちこちから、お久しぶり…の声がかかり懐かしかった。

舞台の方も年々と出演者が増し、華やぎ、楽しみがいっぱいでしたね。一番楽しみの昼食も簡素ではあったが、そこそこだったと思った。

帰路、バス中で、一番楽しんで居たのは後藤さんだよ！と云われて…ハッとしました。支援者の方々は楽しんでくれたのだろうか…？と、うしろめたい気持ちになりました。次回からは支援者と共に楽しめるメニューも考えたいものです。

種々ありがとうございました。ドライバーのすばらしい運転にも感謝申し上げます。



子ども達が楽しめるステージイベントとして「エビカニクス」「恋ダンス」を踊りました。たくさん子ども達が参加してくれました。



毎年恒例、最後は「ふたば音頭」。今年は東京音頭も一緒に踊りました。会場全体が一つの輪になりました。

送迎バスの実施 バスがあったことで広域での交流が広がりました

今回も「避難者と支援者による 2017 ふれあいフェスティバル」では、10 台のバスや車をチャーターしました。広域で交流するのにバスは必須です。都内の電車事情に詳しくない方や自家用車を持っていない方も多く、こうした送迎バスによって多くの方にご参加頂くことができました。

特に、今回は他県の避難者にも多く参加頂けるよう、山梨、千葉、埼玉の各県からもバスの送迎を実施しました。

No	ルート名	ルート
1	山梨ルート	山梨県甲府市労農福祉センター ⇔ 篠崎公園
2	南越谷ルート	埼玉県南越谷市 ⇔ 篠崎公園
3	加須ルート	埼玉県加須市 ⇔ 篠崎公園
4	三鷹ルート	武蔵野市緑町 NTT 武蔵野研究開発センターバス停前 ⇔ 篠崎公園
5	中野・新宿ルート	鷺宮都営住宅自治会 ⇔ 新宿戸山団地・百人町アパート ⇔ 篠崎公園
6	板橋・荒川ルート	成増団地 ⇔ 荒川区社協前 ⇔ 篠崎公園
7	東雲ルート	江東区東雲住宅前 ⇔ 篠崎公園
8	松戸ルート	千葉県松戸市民劇場 ⇔ 篠崎公園
9	町田ルート	まちだ中央公民館 ⇔ 篠崎公園
10	西東京ルート	西東京郵便局前 ⇔ 篠崎公園

実行委員会 みんなで企画を作るため準備会を含め 10 回の実行委員会を開催しました

このふれあいフェスティバルは、都内や近県で活動している避難当事者の団体と広域避難者支援連絡会 i n 東京に参加している支援団体で実行委員会を設けて、企画・運営に取り組みました。

4 月から実行委員会を正式に立ち上げ企画検討を始めました。ふれあいフェスティバル実施後の 10 月まで計 10 回実施しました。



実行委員会の様子

ご協力いただいた皆さま 様々なご協力ありがとうございました

東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN) / 株式会社セレスポ / NPO 法人 かながわ避難者と共にあゆむ会 / 埼玉広域避難者支援センター / ふうあいネット / 東日本大震災・山梨県内避難者と支援者を結ぶ会 / ちば市民活動・市民事業サポートクラブ / 浪江町生活支援課・浪江町復興支援員 / 双葉町復興支援員 (ふたさぼ) / 医療ネットワーク支援センター / 東京 YWCA / 東京 YMCA / (株) 大泉工場 / 金光教静岡教会 D&G ハンドベルリンガーズ / (みちのくまほろば会) ウクレレ・フェローバンド / えっちゃん仲間たち / かんちゃん & どしん / Kotoist 増田厚司 / フラワーコミュニケーション協会 / (慶應義塾大学) ひよこ足湯隊 / 災害復興まちづくり支援機構 / 避難の協同センター / 東京しごとセンター / 生活協同組合パルシステム東京 / 東都生活協同組合 / 生活協同組合コープみらい / 生活クラブ生活協同組合・東京 / じゃおクラブ / ぐるぐるユニット / 人の輪ネット / 江戸川区福祉ボランティア団体協議会 / 雄勝町復興支援実行隊 / 東京都社会福祉協議会 / 葛飾区社会福祉協議会 / 新宿区社会福祉協議会 / 江東区社会福祉協議会 / 江戸川区社会福祉協議会 / 品川区社会福祉協議会 / 世田谷区社会福祉協議会 / 中野区社会福祉協議会 / 豊島区民社会福祉協議会 / 板橋区社会福祉協議会 / 練馬区社会福祉協議会 / 足立区社会福祉協議会 / 立川市社会福祉協議会 / 町田市社会福祉協議会 / 西東京市社会福祉協議会 / その他 多くの個人の皆さま そして参加して下さった 554 名の皆さま

会計報告 たくさんの方々から応援をいただきました

収入	決算額 (A)	予算額 (B)	差額 (B-A)	備考
助成金	¥2,554,429	¥2,229,000	-¥325,429	タケダ・赤い羽根支援プログラム助成金 東京都共同募金会、真如苑
支援金	¥755,000	¥801,000	¥46,000	全労済、中央ろうきん社会貢献基金、金光教首都圏災害ボランティア支援機構、東都生協、災害復興まちづくり支援機構、生活クラブ生協・東京、コープみらい、パルシステム東京、フラワーコミュニケーション協会
総収入	¥3,309,429	¥3,030,000	-¥279,429	
支出	決算額 (A)	予算額 (B)	差額 (B-A)	備考
謝 金	¥44,084	¥80,000	¥35,916	運転手謝金
旅 費	¥1,147,817	¥920,000	-¥227,817	バス借用代等
会議費	¥99,840	¥130,000	¥30,160	実行委員会 開催費
印刷製本費	¥210,000	¥240,000	¥30,000	チラシ、報告書作成費
業務委託費	¥1,695,600	¥1,590,000	-¥105,600	会場設営代等
物品購入費	¥97,198	¥60,000	-¥37,198	報告書作成費
予備費	¥14,890	¥10,000	-¥4,890	振込手数料等
総支出	¥3,309,429	¥3,030,000	-¥279,429	



タケダ・赤い羽根
広域避難者
支援プログラム

※この事業は、タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム、東京都共同募金会、真如苑の助成金、中央ろうきん社会貢献基金、全労済、金光教首都圏災害ボランティア支援機構等の支援金を受け実施しました。